

2023JR 総連春闘の成果と課題を明確にし、次なるたたかいに決起する大宮地本見解

23JR 総連春闘は、3月14日の会社回答に対して職場からの「納得できない」等の多くの声によって再申し入れを行いたたかってきた。「政府の要請による賃上げ」や「労使が対立ではなく『共創』で作り出す」という事にあらわれた春闘破壊にだまされる事なく、職場からたたかい抜くことが出来た事は大きな成果である。しかし一方で、あらわれた会社姿勢を崩すことが出来なかった事も事実である。私たちは、あらためて23春闘の総括を明確にして次なるたたかいに決起しなければならない。

私たちは23春闘を『①要求の実現』『②組織の強化・拡大』『③23春闘の議論の中で、施策に向き合い東労組の必要性を高める』という3つの目的を掲げて取り組んできた。職場からたたかい抜いてきたからこそ、その視点から総括する事が重要となる。

まず『①要求の実現』である。これは定期昇給の完全実施以外、我々の要求は実現しなかった。ベアも有額回答とはいえ要求の6割程度という状況である。そして、更なる格差も発生してしまっている。これがなぜなのか、この先どうなっていくのかを引き続き議論し、深めていかなければならない。

次に『②組織強化・拡大』である。23春闘の中で2名の組織拡大を実現した。当然にも、それまでのかわりの成果であるのは言うまでもないが、春闘の中で拡大は大きな成果と言える。また、低額相場や慎重発言の中でそれを超える会社回答であったが、多くの人たちがその回答に納得せず「もっとたたかうべき」と声が上がった。これは第1ゾーンから第3ゾーンまでスケジュール感をもって職場から様々なたたかいを積み上げ、そして最大結集の場として480名が結集した春闘集会等を通じて、私たちのたたかう目的を合わせてきた成果である。そして会社回答が示された以降も、分会を中心としてリーダーが職場で奮闘し、組合員や未加入者と対話を継続した結果として短期間で600件を超える声が集約されたことも成果として確認できる。一方で私たちのオルグが伝わっていない未加入者からは「満足」という様な声が出ているのを見れば、職場からのたたかいでだまされずたたかい抜くことが出来たといえる。あらためて、具体的に組織のどこが強化されたのか、そこに至るまでに誰がどの様に奮闘したのかを具体的にしていこう事が重要である。

最後に『③23春闘の議論の中で、施策に向き合い東労組の必要性を高めるたたかい』である。いま職場では、懲罰的日勤教育で仕事が出来ないところまで追い込まれている事象や、ジョブローテーションを踏まえた異動で2件の簡易苦情処理申請が出される現状、過半数代表者選挙での東労組批判や会社による投票用紙へのナンバリングなどが発生している。これまでも東労組に嫌悪感を持った不当労働行為等については団体交渉等を通じて議論してきたが、その克服に向けて23春闘の教訓から取り組んでいかなければならない。それは職場から多くの人たちとこだわって議論し、発生している事象を組合員や未加入者と共有化し、このままではどうなってしまうのかを考え、一人ひとりが実践していくことである。

23春闘は悔しい中での妥結となったが、バス関東本部・バス東北本部・ステーションサービス協議会の春闘は継続している。JR 総連春闘として更なる支援と連帯のたたかいを創り出していく。

私たちの職場では、組合差別をはじめとする理不尽な事象が今も続いている。23春闘をここまでたたかい抜いた教訓を各機関で明確にして、更なるたたかいに決起していこう。それ以外に、私たちが安全で安心して働ける職場の実現はない。ここまでたたかい抜いた全ての仲間に敬意を表し、職場から更に組織強化・拡大に向けて奮闘しよう！

2023年3月27日
東日本旅客鉄道労働組合
大宮地方本部執行委員会